

愛媛県の地震

2020年（令和2年）8月

目次

1. 愛媛県周辺の震央分布図	1
2. 地震概況（8月）	1
3. 愛媛県で震度1以上を観測した地震（8月）	2
4. 愛媛県で震度1以上を観測した地震 の震度分布図（8月）	2
5. 地震一口メモ「長周期地震動に関する観測情報」	3

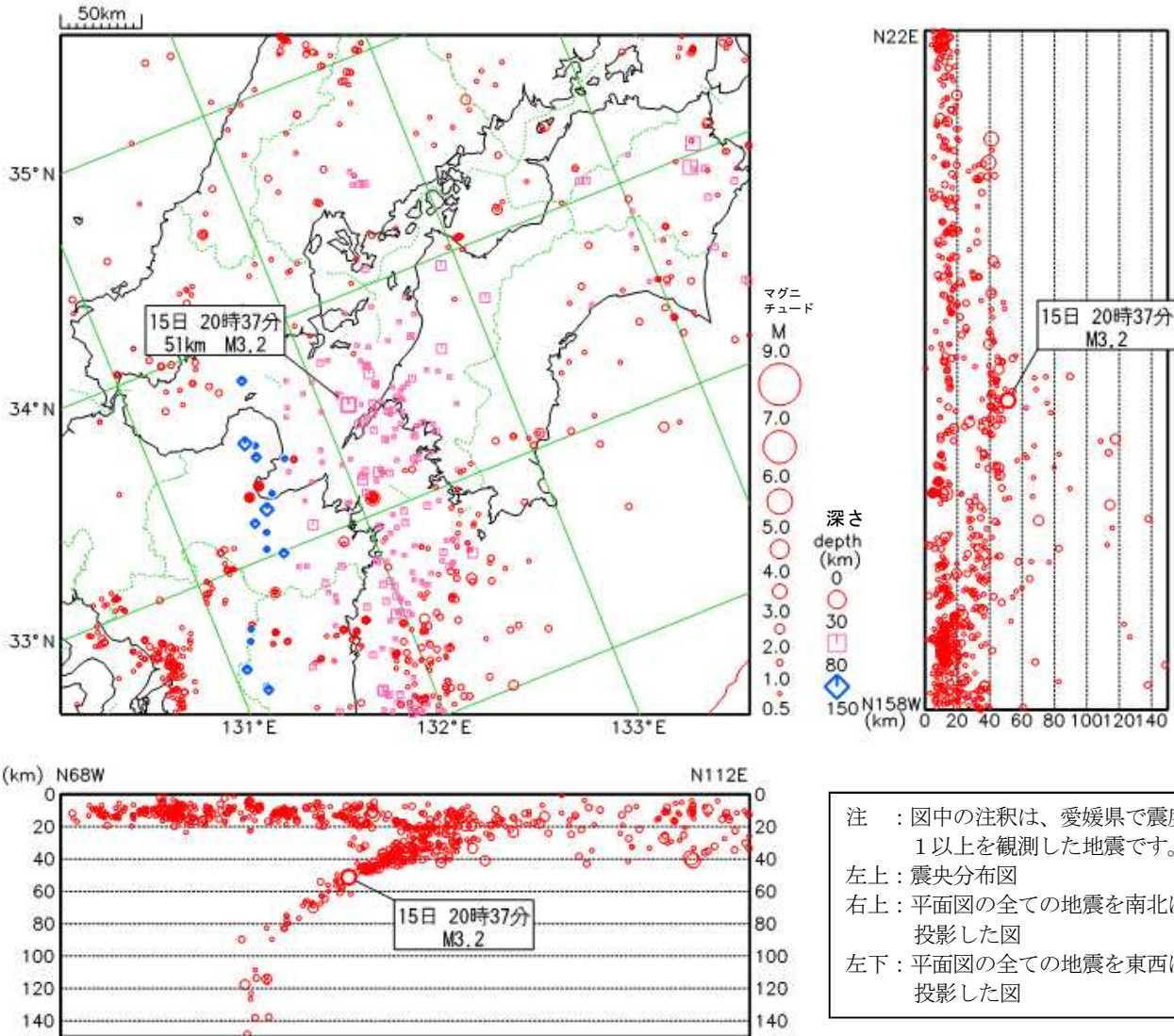
本資料に記載した震源要素（緯度、経度、深さ、マグニチュード）は、暫定値です。これらは、後日、再調査のうえ修正することがあります。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。

また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

松山地方気象台

1. 愛媛県周辺の震央分布図 [2020年8月1日～8月31日]



注：図中の注釈は、愛媛県で震度1以上を観測した地震です。
 左上：震央分布図
 右上：平面図の全ての地震を南北に投影した図
 左下：平面図の全ての地震を東西に投影した図

震央分布図は地震が発生した場所を地図上でプロットしたものです。地震は地下で発生しますのでシンボルマークの形を深さに応じて変えています。○より◇の方が深い場所で発生した地震です。また、シンボルマークの大きさで地震の規模（マグニチュード）を表現しています。

2. 地震概況（8月）

今期間に、上図の震央分布図内の領域で決定した地震のうち M2.0 以上の地震の回数は 37 回（先月は 52 回）、愛媛県内で震度 1 以上を観測した地震は 1 回（先月は 3 回）でした。

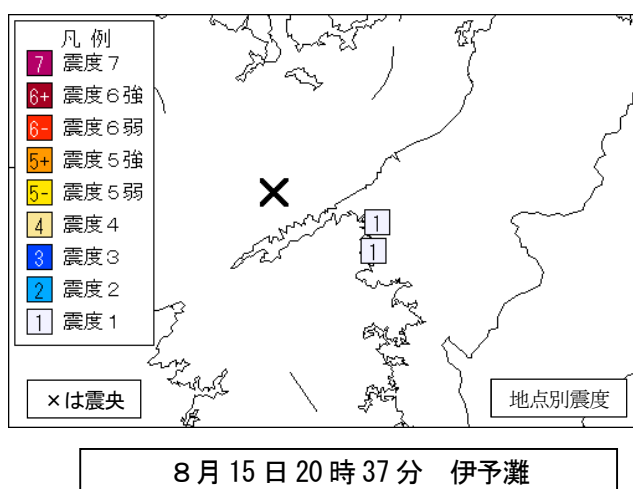
15 日 20 時 37 分 伊予灘の地震（深さ 51km、M3.2）により、愛媛県八幡浜市・西予市で震度 1 を観測しました。

3. 愛媛県で震度1以上を観測した地震（8月）

震源時（日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード	最大震度
愛媛県内各地の震度						
2020年08月15日20時37分	伊予灘	33° 31.1' N	132° 08.7' E	51km	M3.2	最大震度1
----- 地点震度 -----						
愛媛県	震度 1：八幡浜市五反田＊, 西予市三瓶町＊					

注：＊印は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

4. 愛媛県で震度1以上を観測した地震の震度分布図（8月）



5. 地震一口メモ

長周期地震動に関する観測情報

地震が起きると様々な周期を持つ揺れ（地震動）が発生します。周期とは、揺れが1往復するのにかかる時間のことです。南海トラフ地震のような規模の大きい地震が発生すると、周期の長いゆっくりとした大きな揺れ（地震動）が生じます。このような地震動のことを長周期地震動といいます。建物には固有の揺れやすい周期（固有周期）があります。地震波の周期と建物の固有周期が一致すると共振して建物が大きく揺れます。気象庁では、地震発生後、震度の情報を発表していますが、震度が小さくても高層ビル高層階で大きな揺れになることがあります。震度は地震動に含まれる周期0.1秒から2秒の範囲にある短周期の成分の大きさを表すように決められているからなのですが、高層ビルや石油タンク、長大橋梁等の長大構造物は、数秒から十数秒の固有周期を有します。

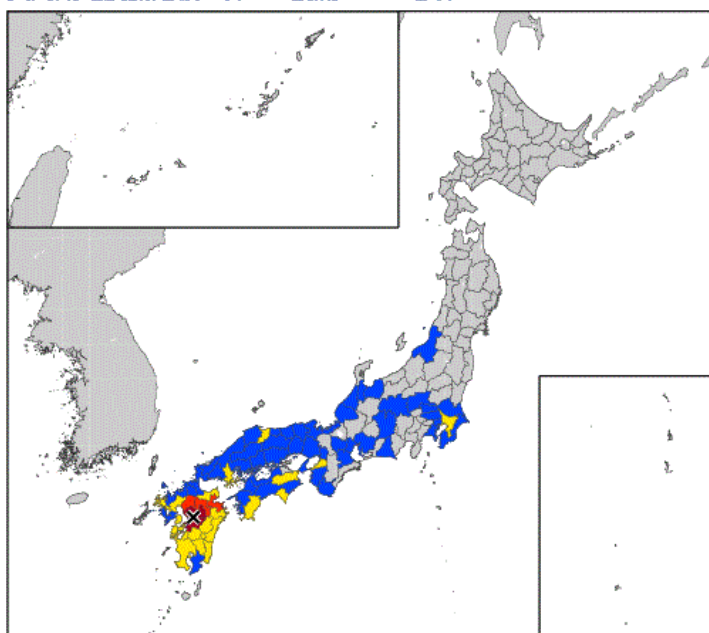
このように、震度では高層ビル高層階の揺れの大きさは把握できないことから、気象庁では長周期地震動階級を策定し長周期地震動に関する観測情報を地震発生から20～30分後に気象庁HPに掲載しています。長周期地震動階級とは、高層ビル内における地震時の人の行動の困難さの程度や、家具や什器の移動・転倒などの被害の程度から4つの階級に区分した揺れの大きさの指標です。長周期地震動階級関連解説表では、推計された長周期地震動階級で発生する可能性がある被害を記述しています。

長周期地震動階級は、地表や低層建物の一階に設置した地震計の観測データから求めたものであり、その場所に高層ビルがあれば高層階でどのような揺れになるかを推計したものです。周辺の高層ビル等における建物内の被害状況把握の参考にできるものの、個々の高層ビル等の特性や地盤条件まで表現しているものではありません。また、高層ビルの中でも、階や場所によって揺れの大きさが異なります。特に建物の頂部の揺れ方は発表した長周期地震動階級よりも大きくなる場合もあります。

長周期地震動階級	人の体感・行動	室内の状況	備考
長周期地震動階級1	室内にいたほとんどの人が揺れを感じる。驚く人もいる。	ブラインドなど吊り下げものが大きく揺れる。	—
長周期地震動階級2	室内で大きな揺れを感じ、物につかまりたいと感じる。物につかまらなると歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。	キャスター付き什器がわずかに動く。棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。	—
長周期地震動階級3	立っていることが困難になる。	キャスター付き什器が大きく動く。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。	間仕切壁などにひび割れ・亀裂が入ることがある。
長周期地震動階級4	立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされる。	キャスター付き什器が大きく動き、転倒するものがある。固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。	間仕切壁などにひび割れ・亀裂が多くなる。

長周期地震動階級関連解説表

長周期地震動階級1以上が観測された地域



長周期地震動階級の凡例: ■ 階級1 ■ 階級2 ■ 階級3 ■ 階級4

長周期地震動に関する観測情報の発表イメージ

長周期地震動に関する観測情報掲載ページ

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/ltpgm/index.html>